

科目名 (科目番号)	公衆衛生 看護学実習Ⅱ (健康生活の支援) (時間割参照)	教員名	長堀智香子 鈴木悠圭	学科等	看護	選択	履修年次	4
				曜日・時限等	時間割表参照		単位数	4
				授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各教員研究室	
授業概要	実習を通して、地域で生活している人々の健康やQOLの向上を目指すという、公衆衛生看護の視点を養う。保健所と市町村の保健センターを実習施設とし、公衆衛生行政の現状や関係機関との連携のあり方、保健師が地域特性を踏まえて行っている個別的支援、集団的支援、組織的な支援の実際を通して保健師の役割について理解を深める。							
目的・目標	保健所と市町村における公衆衛生看護活動の展開方法と保健師の役割を学ぶとともに、基礎的な実践能力を修得する。							
準備学習								
授業計画	授業項目			到達目標・学習内容				
	1. 到達目標 1) 保健所と市町村保健センターが、住民にとってどのような役割を果たしているのか、またどのように連携しているのかを説明することができる。 2) 保健所管内・市町村の地域特性や住民の健康課題を説明することができる。 3) 保健所管内・市町村の地域診断と各種保健事業、地区活動とのつながりを通して、公衆衛生看護活動における計画・実施・評価の方法について知識を有する。さらに健康課題を解決するための目標と具体的な支援方法を考えることができる。 4) 地域組織活動への参加を通して、住民主体の活動を理解することができる。 5) 個人・家族・集団に対して健康課題解決のための手法を選択し、一部実践できる。その中で地域の保健・医療・福祉に関する社会資源とその活用方法について説明できる。 6) 地区管理、ケース管理、業務管理、組織を運営するための情報管理、人材育成といった公衆衛生看護管理の実際を説明できる。 7) 健康危機管理に対して、組織的な管理体制やシステム構築の実際について説明できる。 8) 公衆衛生看護領域における課題を見いだし、研究的視点で考えることができる。 2. 学習内容 1) 保健所と市町村における公衆衛生看護活動の役割や展開方法について学習する。 2) 保健所管内や市町村の地域特性や健康課題につながる量的・質的な情報を得て地域把握を行う。 3) 各種保健事業、地区活動を通して、その目的や計画立案、実施、評価の一連の流れを学習する。またそれらの法的根拠や地域診断とのつながりについて学習する。 4) 地域組織活動や住民のグループ活動への参加を通して、会が組織化されるまでの経緯や、保健師の役割について学習する。 5) 家庭訪問や、健康相談、健康教育を通して、保健師活動に必要な基礎的技術を学習する。 6) 地区管理、ケース管理、業務管理、組織を運営するための情報管理、人材育成といった公衆衛生看護管理の実際について学習する。 7) 健康危機管理体制を構築する上での、保健師の役割や活動を学習する。 8) 公衆衛生看護活動の中で、現在直面している課題について学習する。							
成績評価の方法・基準	事前学習10%、実習記録70%、個人レポート20% オンライン時は一部変更することがあります。							
教科書								
参考図書	保健師業務要覧			村嶋幸代他		日本看護協会出版会		
教員からのメッセージ	実際の公衆衛生看護の現場に出て、これまで学んできた知識や技術を発揮していく実習になります。安全に留意しつつ、各自が目標を持って、実習に取り組んでいきましょう。また、グループでの行動や発表が多くなりますので、皆で協力し合う気持ちを大切にしてください。行政等で勤務した保健師がこの科目を担当します。							